



乗鞍行

筆不精の爲三月の紀行を五月に書く様になつて笑はれるだらう、それに一緒に行つた近ちゃんからは多分文句を言はれるにちがひない。

三月七日

松本の駅には長岡の連中が待つて居てくれた。飯田屋で勢ぞろひをして一行十一名、長岡の兄を始め六名、大阪の田村君それに松本スキー倶楽部の西村、唐沢だ。

美ヶ原が樹一本も見えず真白だ。常念から後立山の連峯がくつきりと青空に浮んで居る。自動車三台列んで梓川に沿ふて行く。島々で車輪にチエーンを掛けて武嶺だ。日光の戦場ヶ原を思ひ出す。此処三日お天気だったさうで前川渡まで自動車は無事に行けた。お天気は上々だが風はやはりつめ

たい。白濁道の上り口の小屋でポカ／＼陽を浴びて後の車を待つてゐるがなか／＼やつて来ない。運転手が下手なものだからレールからそれて雪の中へさ／＼つてしまったので、とんでもない処でピッケルを使つてしまったと大こぼしの連中は十一時半になつてやつと来た。これで今日の豫定はすっかり狂つてしまった。

スキーはかついで大野川入。大野川の福島屋で昼飯、裏の坂を番所に登りついたので一時四十分。少々天気は変わりかけて来た。乗鞍の峯々には時々雲が走つてゐる。番所原の西端でスキーをつけて三十分位で鈴蘭小屋に着いた。時に三時十分。泊るには惜しいがこれからでは冷泉小屋へは十分遅くなるので今日は足ならしに裏の斜面で滑ることにした。雪は宜しい。今年初めての直滑降だ。滑る。相当滑れる連中が十人そろつてゐるのだからなか／＼の壮観だ。何年振かで兄と一緒に滑ったが腰が高くつて不安定だと始めつからどなられて五時過までみっちりコーチして貰った。

第一夜は三間に別れて泊つたが素晴らしい賑かさ。学校の合宿などとも及ばない。炉端ではゾームの赤トアザラシで行かうとピー／＼言はしてゐる者もあれば、ミックスで簡単に済まそうと云

ふ者もありとても賑やかだ。夜の最低温度零下十三度。

三月八日

案の状雪だ。ピュー／＼唸る針葉樹の馬鹿尾根を重いリュックに苦しめられながら登る。冷泉小屋に十一時着、約三時間半を費してしまった。この風ではとても有までも行けない。林を出たら吹飛ばされるにちがひない。実際小屋の場所は良い処にある。谷の底で林の中だ、屋根の機は物凄くゆれてゐるのに此処は割に平穏だ。土間には大きいストーブ、いやボーラーと言った方が良い様なストーブがある。で此処に居ると出るのが嫌になつてしまふ。時々窓を明けて見るがピュー／＼唸つてゐるので誰も出ない。併し暫くすると雪に全く埋れてゐる小屋の事故頭がガン／＼して来るともたまらない。外で滑った方がよい。雪は凄く始めて味ふ様な粉雪だ。一寸もシヨックがない。思ふ様に滑れる、そしてスピードが出る。前の一寸した廣場で一時間位練習をした。鈴木へ二十八才絹物商は一週間前に赤ん坊が生れたばかりなものだから凄くはりきつてゐる。石塚へ二十九才呉服屋も嘗て中川新と全日本の選手権を争つただけあつて凄く足の強さを誇つてゐる。まるで足で

曲つてゐる様だ。僕達の二倍は滑つたらしい。田中はジヤンパーだけあつて実にいゝ腰を持つてゐる。凄く長いスキーを履いて美しいシユプールを描いて居る。酒井へ三十六才は二十二貫と云ふ身体だから滑り方が誠に豪快だ。兄は化石になつた様な型で疲勞を百パーセントに口ツスしない様な滑り方をしてゐる。西村はデイスダンスの現役なので誠に円滑に滑つてゐる。一行が帰途冷泉小屋から鈴蘭まで西村君と石塚君がレースをやつたさうだが、さぞ面白かつたらうと思はれる。

三月九日

引續いて吹雪だ。小屋では頭が痛むし、外はピュー／＼言て居るので、一時間滑つては一時間ストーブと云ふわけで今日は西村君をコーチに制動とステムターンの練習をみっちりやつた。なかく良い練習になった。石塚は相変わらず元をとらうと云ふので休みなしに滑つてゐる。夜最低気温零下十五度。

三月十日

又吹雪だ。長岡の連中は天気になるまで幾日も遊んでゐるんだ何て気長にしてゐるが、僕と近ちゃんとはたまらない。空を仰いで溜息だ。併し幸なるかな午後一時頃から晴れて来た。戦闘準備

宜しく一時四十五分小屋脱、位ヶ原に出た。からりと晴渡って左手に頂上が青空にくっきりと眺められる。

右手には剣ヶ峯が真白に見える。時々身体を吹き飛ばす程の風が雪煙を巻いて肩から吹き下して来るので立ち止り／＼して肩小屋に三時半に着いた。何はともあれストーブをたいて暖をとった。時に四時。これからがんばれば六時迄には頂上にやって来られると思ふが無理をしてはならんと云ふので下りにかゝった。穂高と碓が夕空に赤く見える。位ヶ原の下りは実に素晴らしい。何回システムターンをやったらう。十八が美しいS字を描いて下つて来るのだ。田中が一生懸命にこれをパターベビーに納めてゐる。下の方は直滑降だ。今一度滑って見度い。是非一度は行って見るべきだ。

三月十一日 無風晴天、皆は良い気持ちに頂上へ向って行く。僕と近ちゃん、勤人の悲しさに涙流して下ることになった。鈴蘭小屋の裏の鳥居の処から見ると位ヶ原を一路に登って行く一行が見える。暑い日だ。頂上でも夏シャツ一枚でよかったさうだ。これが今年の乗り納めだ。

(松木)

會報投稿回数調査

會報へ額を出す會員諸兄が、餘々少くなる傾向がある。出る額は年中出て居るが、出ないのになる。と全然會報へ御目見得せぬ不届者も居る。

然し投稿犬はさあ書けと云はれても今すぐ書くと云ふ理には行かない。年頃でないが何か種が必やだ、此の種も心掛けの悪い連中は貯へて置かない。其処になると謙ちゃん、孫さんなんか大した心掛けだ、謙ちゃんや孫さんと話をすれば必ず「是れは會報ものだ」と云ふ事を云ふ。

投稿して皆んなを喜ばしてやらうと云ふ事を夢寐にも忘れない。是れでなければいけない。會員諸兄皆んな此の心掛けになると毎刊数十頁の會報となる事請合。

創刊号以来の投稿五回以上の會員をあげて見ると、中川氏32回、吉沢氏30回、程20回、村尾氏17回、松木氏11回、矢作氏10回、渡辺氏9回、浦松氏8回、手塚氏5回、野、五十嵐氏各7回、森竹氏6回、奥野、小栗氏各5回、但し以上の調査は第五年第三号が見えなかったの

で其分丈ぬけて居る。以上の様な額振れである、処が未だ一回も會報に仁義をしない諸兄を調べて見ると

赤城、芋川、丸茂、太田、曾田、清水、関、

高見・高瀬、宇佐美、の諸兄が先ず橋玉にあげられる。

右の諸兄よ、身辺雑事 皆是れ種なり、宜しく筆をとりて會員を喜ばしめよ。

初てそれからと!! いやも、種がない。

(狸)

あだお考

あだおが、山の中で非常にひたり来ると言ふ事は既に明か事です。それが延長された場合には、日常に於ても本名の方が却つて変に聞える場合があります。あります。例へば「ドンちゃん」など如何です。筆者は曾て一度も太田さん「ドンちゃん」が呼ばれた事を聞いた事がない位です。乍然あだおがその位の通用性を有するには呼ぶ方がかへつて表面する様なものであつては困難です。そこにあだおの六難さがあると思ひます。前置が長くなりまして、たが現役連の又の名を御紹介致しませう。

先づ本三では宮川雄三郎君「コリー」である、その由来は遠く昭和五年十月二十一日に溯る、試験が終つた豫科坊主六名、雨中也何のその神津牧場へとたどり着いたのであつた。門口に迎へたのは名犬「イングリッシュコリー」である。彼犬と

彼氏との河面は諸氏の御想像にまかせませう。

小橋謙三君は「二世ヘーチヤン」である、その由来は合宿に参加すればお合りの事と思ふが、その

その初めは前項の神津牧場に於て「アル」、尚彼氏別に権三なる名を有す、曾ての昔彼氏等遭難の

報傳はるや京都日日は報じて曰く「小橋権三等一行数名云々」と

次は伊藤文平君その名より、輕く「モン平」である「モン平」なる音彼氏を彷彿させるではあり

ませんか。

次に安達泰三君は「シヨンペイ」である、松本謙三氏は彼の中學の先輩であるそうである。

中島孝君は「ホー助」或は「車カ」である、前者は彼氏の口癖「ホースケラツパ」より由来せる

ものなりと言はるゝも筆者の詳なる所ではない、後者は彼氏の独特の防水上靴を着れば立所に理解

せらるる所である。

本一では林俊介君である、目下朝日新聞で評判の只野凡児のモデルは彼だそうである、勿論「ボ

ンちゃん」と呼ぶを便利とする。

豫科では望月達夫君千瓢である。その身のこなし方は正に煮湯を注がれた千瓢である。尚彼氏共

食を好みリユツクの中には必ず兄弟が鎮座しまし

す事も合せ考へられ度い。カンチヤンである。
お次は小谷部金助君「全部助平」である「助平」
んと呼び度い彼氏の自任する所。知る人ぞ知る
である。
驚崎雄四郎君は「ユーちゃん」である、平凡で
はあるがその感じが出てゐる。
杉浦亮君は「先生」である、敢て姓名のみより
ではない、その御面相はメンデルの法則を立証し
そうである。「センシヨン」と読音してもよい。
森脇芳之君は「バンちゃん」である、五色の合
宿に参加した人は直ちに思ひ當る筈である。あの
靛色の着物とハッピを着せたなら誰でも「おい早
く飯持って来い」と怒鳴るに違ひない。
遠藤竹雄君を「デカ雄」とは如何、「デカちや
ん」と呼ぶは勝手である。
転じて専門部に何かう。
豊田忠雄君は「お爺さん」と行かう。ピツケル
を杖と見れば尚更である。
鷹野雄一君は「エチオピア」の「大食」である、
彼氏一度紫外線を吸収するならばアベバさんそこ
のけである、過食欲不振の折は六八杯だそうで
ある。
最後に大野恵司君「國公」コト「國ちゃん」と

は如何、盡し文句なしに鼻より、圓子であるからで
ある。
未だあだのない諸君は沢山居りますがいづれ
親しく御進呈の光榮を有し度いと思つて居ります。
首言多謝

(ARRA)

昭和八年度一橋山岳部會計報告

摘要

収入之部		支出之部	
前年度繰越金	25.00	集會費	1.95
本科専門部部費(部費)	47.50	保険料	4.50
豫科部費	2.00	原稿用紙及圖書貸出費	9.00
入部金(12名)	12.00	器具購入	6.95
雜收	19.30	日本山岳會々費	12.08
針葉樹會計刊	11.05	スキー合宿用バッグ	15.00
		諸雜費	4.46
		部員立替金支払	2.80
		豫科へ	3.00
		部室改装	38.45
		現金手許有高	18.66
			116.85
	116.85		

雜收トハスキ
| 合宿上高
地テント等カ
ラノ収入デス。
予科カラノ部
費ガ少ク因リ
マス。
日本山岳會々
費ハ九年度モ
含マレテ居リ
マス。部員立
替金トハ「ス
キー」ヘ「手引」

本年度スミ合宿ニテ使用分一四冊分ダケ
支払ツタモノデス。
部室改裝ノ費用ハ針葉樹會ノ方カラ得ラレ
ル等デスカラ本年度ハ大分余剰ガアル訳デ
スガ之ハ九年度ニ於テ「テント」ヲ購入ス
ルタメニ貯ヘタノデス。

(堀岡)

會員往來

河相薫氏 クリスマスにアイスクリームでお祝す
るトンチンカンな國、壕洲から社用で一時期
朝されました、その歓迎會を五月廿日に開き、
「寒い南風が吹けば」と言つた様な話を聞き
ました。

吉澤一朗氏 その廿日に歓迎會をせよとの御自身
の嚴命にも拘らず突如上京を延期されました、
従つて同氏の歓迎會も無期延期です。

高瀬進三氏 東京大阪間第〇〇号列車の箱師の様
に頻繁に往來する同氏は廿二日上京され一稼
ぎしたとみえ廿四日帰阪。

太田又一氏 こあいだの夢見が悪かつたから心配
だとばかり案じながらお母さんの顔を見に廿
八日上京。夢とは相違して元氣ハツラツお家

族に逢つて忽ち不安解消。昨日帰阪。

編輯末記

狸居士のほげしい筆跡を受けて怡として耻ぢな
い會員が何名ありませうや。天覧試合に於ける野
間君の太刀先の鋭さを狸居士の筆端に感じます。
慨世憂國の士、狸居士の苦言をして、願はくは彼
氏の屁の如く立消えせしめられ。新に光榮ある編
輯の大任を負つた僕も実はソノ及ばずながら被筆
誅組の一人でした。その申訳にと驚馬に自ら鞭打
つて此の會報を立派な物に為し遂げたいと念じて
居るのです。それに就いて、是非共會員諸兄の御
指導と御援助を願はねばなりません。在學中の若
い御仁たちは、先輩の會報だからなどと言つて投
稿を遠慮してはいけません。君たちは山行の記録
なり感想なりを発表する機關として此の針葉樹會
報より外にないのぢやありませんか。奮起を切望
します。最後に近作一篇を掲げて御披露いたします。

初夏 薫風 好氣象
大賀 諸兄 御健勝
近時 原稿 極不足
不問 長短 乏役稿

(園山徳三郎)